

# Daito toDay

## No. 9



5連覇のテコンドー部の選手たち

発行日 2019年10月21日 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1  
 発行 大東文化大学 学長室 po@ic.daito.ac.jp  
 編集 河内利治 [http://www.daito.ac.jp/president\\_blog/](http://www.daito.ac.jp/president_blog/)



カバディ銅メダル選手

## 躍動する大東文化大学のスポーツ

ドーハ2019世界陸上に続いて、ラグビーワールドカップ2019日本大会と選手たちの連日の活躍に日本中の注目と応援を集めています。

大東文化大学のスポーツは私たちが誇る情熱の象徴として世界の一流で活躍しています。大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立準備から参加してきた本学は大学スポーツを通じて卓越性を有する人材の育成を目指しています。スポーツは社会の活力を支え、生活を豊かにする源泉です。皆様のますますのご支援をお願いします。

2019年4月から10月までのHP掲載の主な結果（スポーツ振興センター提供）

日時	大会名	クラブ名	氏名	種目	結果
5月	世界テコンドー選手権大会（G12）	テコンドー部	東島星夜	男子54kg級	ベスト16
6月	オーストリア国際オープンテコンドー選手権大会	テコンドー部	小森サイオン	男子58kg級	銅メダル
6月	オーストリア国際オープンテコンドー選手権大会	テコンドー部卒業生	前田寿隆	男子63kg級	銅メダル
6月	ワールドグランプリ（G4）第1戦ローマ大会	テコンドー部卒業生	山田美諭	女子49kg級	銅メダル
6月	第103回日本陸上選手権大会	陸上競技部女子長距離	吉村玲美	女子3000m SC	優勝、U20日本記録
7月	第30回ユニバーシアード競技大会	陸上競技部女子長距離	関谷夏希	女子10000m	銅メダル
7月	第30回ユニバーシアード競技大会	陸上競技部女子長距離	鈴木優花	女子ハーフマラソン	金メダル
7月	第30回ユニバーシアード競技大会	ラグビー部	南昂伸	ラグビー競技（7人制）	金メダル、共同キャプテン
7月	第30回ユニバーシアード競技大会	テコンドー部	東島星夜	男子58kg級	5位
7月	第30回ユニバーシアード競技大会	テコンドー部	鈴木リカルド	男子68kg級	ベスト32
7月	第30回ユニバーシアード競技大会	テコンドー部	西後実咲	女子49kg級	ベスト16
7月	ワールドラグビーU20トロフィー2019	ラグビー部	青木拓己		金メダル
8月	世界マーシャルアーツ・マスターシップ	サークル	阿部哲郎	カバディ	銅メダル
8月	世界マーシャルアーツ・マスターシップ	サークル	根来真生	カバディ	銅メダル
9月	ラグビーワールドカップ2019日本大会	ラグビー部卒業生	茂野海人	日本代表登録メンバー	
9月	第13回全日本学生テコンドー選手権大会	テコンドー部	団体	キョルギ（組手）	優勝、5連覇
9月	第17回世界陸上競技選手権大会	陸上競技部女子長距離	吉村玲美	女子3000m SC	予選2組13着
9月	第17回世界陸上競技選手権大会	陸上競技部卒業生	白石黄良々	200m	予選6組5着
10月	第17回世界陸上競技選手権大会	陸上競技部卒業生	白石黄良々	4×100mリレー2走	銅メダル、37秒43アジア新記録
10月	第74回国民体育大会	陸上競技部短距離	竹内萌	成年女子走高跳	優勝、1m78cm

1

## 災害で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます

台風15号さらに台風19号は全国的に甚大な被害をもたらした多くの犠牲者を出しました。一連の自然災害で被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い回復と復興を心からお祈り申し上げます。大東文化大学では学生・教職員の安否確認および安全の確保に加えて、地域連携活動を深めて、各機関や住民とのなご一層の連携強化を図ってまいります。



# 内部質保証システムの構築について

今年度、本学の「自己点検・評価体制」は「内部質保証体制」へと大きな変貌を遂げました。「内部質保証」とは、大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために自らが行う教育及び研究、組織及び運営、ならびに施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上に取り組むことを指します。

これまでの体制では、大学の改善を促進するため、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action）の Check（検証）の部分を中心に活動を行ってきましたが、第3期認証評価では、「全学的観点による評価を通じた内部質保証システムの機能化と内部質保証システムが機能し、改善が進んでいるか。」ということがテーマとなっており、組織的な内部質保証（PDCA サイクル）の機能化を進めていくために、新たな体制を確立するに至りました。

本学では、組織的な内部質保証システムを確立するにあたり、3つのレベルに分けて体制を構築しています。①組織全体レベル、②プログラムレベル、③個々の活動レベルとしており、各レベルでそれらの質に責任を負う主体や評価の視点が異なります。

まず、組織全体の内部質保証においては、大学全体の教育に関わる質保証を担う組織体が実施主体になり、これを担うのが「内部質保証推進委員会」になります。それに対して、プログラムレベルにおける内部質保証については、「学部・研究科および学科・専攻、センター等の組織体」と今年度より新たに設置した「部局別自己点検・評価委員会」が実施主体になります。さらに、個々の教育研究等の諸活動に関しては、それを担う「教職員」が主な実施主体となります。

そして、各実施主体として、組織全体レベルでは、「大学全体の事項の有効性の検証」、プログラムレベルでは「教育プログラムの有効性の検証」、個々の活動レベルでは「授業に関する有効性の検証」の実施が求められています。各レベルで自己点検・評価し、計画を立て、改善に努めることで、本学の自主的、自律的な教育研究活動が担保され、これらの活動を社会へ公表することにより、本学の質が確かなものであることを証明していくことになります。

また、内部質保証推進委員会のもと、「全学自己点検・評価委員会」が設置されています。この委員会は、各プログラムレベルの点検・評価シートの内容を全学的観点により点検・評価し、「大学自己点検・評価報告書」として取りまとめられます。まとめられた報告書は、大学全体として長所、課題を抽出し、次年度の改善計画へ繋げることとしています。

さらに、学内だけではなく、客観的な評価も必要になります。本学では2014年度より、外部有識者による外部評価委員会を設置しており、毎年外部評価を行い、本学関係者との意見交換会を実施しています。学内関係者とは異なる客観的な視点で本学の教育研究活動が評価されることにより、新たな方策が生まれ、本学の改善に取り入れられます。

最終的に、これらの点検・評価結果は、「点検・評価結果に基づく改善方針（学長方針）」として纏められ、次年度の計画に組み入れることにより、本学のPDCA サイクルを実現しています。

おわりに、「なぜ内部質保証をしなければならないのか」ということですが、第一に数多くの大学の中から本学を選択してくれた学生のためだと思います。また、決して安くはない学費を一生懸命支払われている学生や保護者の方の期待に応えていかなければなりません。そのためには、教職員一人一人が自分自身の質を高め、組織の質を高め、教育研究活動の質を高めることにより、本学学生に確かな力を付けてもらうための努力を不断に行っていく必要があります。これからの内部質保証活動については、質を保証していくための仕組みづくりを進めていくことになりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（学長室員 白石崇）

## 2 大東文化学園内部質保証体制概念図

